

科目名	看護の統合と実践方法	対象学年・時期	3年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	2単位・30時間
授業概要	<p>看護を取り巻く環境は、慢性疾患の増加、少子高齢化、医療技術の進歩等大きく変化し、患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。臨床での実践に適応できる問題解決能力や看護実践能力を備えた、対象の置かれている場・状況・状態に応じた看護を実践できる看護師が求められている。組織における看護師の役割を理解すること、チーム医療の中で多職種と協働し、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解し看護がマネジメントできること、既習の知識・技術の統合を図るとともに、高い倫理観を持ち、看護の専門性、ケアの質の向上を追求する態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力の習得が必要である。</p>		
授業形態	講義・演習・グループワーク・ディスカッション		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた看護を実践する能力およびリスクマネジメント能力が身につく。 2. 多重課題の演習を通し、看護業務を行う一員としての役割や責任を理解するとともに、自己の課題を明確にできる。 3. 倫理的問題に気づくことができ、看護の専門職業人としての思考・行動について意見交換ができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務遂行のためのマネジメント 2. 多重課題への対処 3. 多重課題の患者事例演習における看護実践能力総合評価 事例設定・状況設定に応じたパフォーマンス評価 デブリーフィングを通して自己の振り返りを行い、課題を明確化する。 4. 事例をもとにした看護倫理についてのグループワーク 		
使用テキスト	<p>系統看護学講座専門分野 基礎看護学1「看護学概論」第16版 茂野香おる 医学書院 看護学テキストNiCE「看護倫理」第3版 小西恵美子 南江堂</p>		
事前・事後学修	その都度指示します。		
評価基準および評価方法	課題への取り組み		

備考	本科目はこれまで学んだ知識・技術を駆使し、対象の状態に応じた看護が実践できることが求められます。これまで学習したことに一つ一つ戻りながら安全・安楽な看護が実践できるよう主体的に学習することが必要です。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------